

市民の活動報告

目次

1. 特定非営利活動法人わたらせ未来基金の活動報告 1
2. 渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会の活動報告 3
3. 渡良瀬遊水地野鳥観察会の活動報告 9

1. 特定非営利活動法人わたらせ未来基金の活動報告

2024年4月、6月、10月、2025年1月						
番号	月・日		4月27日	6月2日	10月20日	1月13日
	鳥種	天気	曇り	晴れ時々曇り	晴れ	晴れ
1	マガモ					2
2	カルガモ		7	4		54
3	コガモ		3		2	65
4	ホシハジロ					1
5	カイツブリ		1			1
6	カンムリカイツブリ					2
7	ハジロカイツブリ				1	
8	キジバト			1		
9	コウノトリ		4	4	1	1
10	アオサギ		1			1
11	ダイサギ					1
12	オオバン					2
13	トビ		1	1		
14	ハシボソガラス		1		1	1
15	ハシブトガラス			2	2	
16	ヒバリ		2	1		
17	ツバメ		8	9		
18	オオヨシキリ		6	22		
19	コヨシキリ			2		
20	セッカ		1	4		
21	カワラヒワ				5	
22	ホオジロ			1	1	
月別確認種数			11	11	7	11
月別確認総数			35	51	13	131
年間確認種数：22種						

参考事項:コウノトリ確認数 (当日の調査 前後・調査範囲外を含む)	確認数	5	5	2	1
	確認場所・動態と 内訳	調査中、人工 巣塔で親1、ヒ ナ3、 調査前、調査 範囲外から巣 塔に向かい飛 翔する別個体 1	調査中、人 工巣塔で親 1、ヒナ3、 調査 前、調査範 囲内で飛翔 する別個体1	調査前、調 査範囲外で 飛翔2 (調査中の 飛翔1は、調 査前の1と同 一と推定)	調査中、人工 巣塔で1

年度別比較

調査時期別

確認種類数(各調査ごと及び通算種類数)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
4月	—	25	15	17	11
6月	17	18	10	10	11
10月	27	13	13	10	7
1月	18	17	17	17	11
種類総数	42	43	31	33	22

確認数(各調査ごと及び総数)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
4月	—	105	35	41	35
6月	39	51	30	28	51
10月	126	57	86	36	13
1月	94	66	245	115	131
確認総数	259	279	396	220	230

注) 令和2年の4月は調査無し
令和4年の1月はコガモ132羽の大群あり

水鳥と他に分類した比較

確認種類数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
水鳥	18	21	12	13	11
その他	24	22	19	20	11
種類総数	42	43	31	33	22

確認総数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
水鳥	103	149	278	142	157
その他	156	130	118	78	73
確認総数	259	279	396	220	230

注) 水鳥: カモ科、カイツブリ科、コウノトリ科、ウ科、サギ科、クイナ科、シギ科、カワセミ科の合計数

コウノトリの確認数(調査当日の調査時間前後及び定点センサス範囲外を含む)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
4月	2	3	3	5	5
6月	4	3	4	4	5
10月	0	1	2	1	2
1月	2	2	1	2	1

4月は同時期
の別調査

4月は推定の
ヒナ2を含む

2. 渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会の活動報告

渡良瀬遊水池第2調節池 2024年度ラインセンサス調査結果について

渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会

「渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会」では、今年度も第2調節池内の [REDACTED]
[REDACTED]」において、四季を通じてラインセンサスを実施した。
調査地の詳細及び調査期日・時間、記録鳥種・数について報告する。

1. 調査期日 2024年4月27日
2024年6月9日
2024年11月30日
2025年1月25日
2. 調査時間 春夏期は6時～8時、秋冬期は8時～10時
3. 調査地 渡良瀬遊水池第2調節池「[REDACTED]」東岸辺沿いと、
北岸辺沿い道路を通し1km（各コースを往復し、各コース調査は2回）
調査範囲
距離1Km×幅片側50m（高さ50m）

4. 調査種・数 表1に記す。

5. 調査結果 考察

(1) 種数等について

記録された鳥類の種数は、外来種2種を含み、12目28科58種であった。
季節としては春期と秋期に種類が多く、夏期と冬期は少なかった。

表1 2024年度 渡良瀬遊水地第2調査地「XXXXXXXXXX」ラインセンサス野鳥調査

		渡良瀬遊水地を守る利根川流域住民協議会															
開催年		2024				2024				2024				2024			
開催月		4				4				6				11			
開催日		27				27				9				30			
開始時間～終了時間		6:30-8:30		7:00-7:45		7:45-8:30		8:30-9:15		9:00-9:30		9:30-10:00		10:00-10:30		10:30-11:00	
天候		晴		晴		晴		晴		晴		晴		晴		晴	
観測内陸距離		20		26		19		21		14		13		14		12	
目録		20		26		19		21		14		13		14		12	
種別		20		26		19		21		14		13		14		12	
キジ	キジ	1	2	1	2					2	2	2	2				
カモ	カモ													30	7		
	オカヨシガモ													4	15		
	マガモ													3	18		
	カルガモ	14	5	9	2					3	3			12	6		
	ハシビロガモ	10	6	2	2									12	4		
	シマアジ		1														
	コガモ	22	12	16	8									5	12		
	ホシハジロ													6	4		
	ミコアイサ													12	15		
カイツブリ	カイツブリ		2											7	8		
	カンムリカイツブリ													3	2		
ハト	ハト	8	3	6	5					4	2			1			
カツオドリ	カツオドリ																
ベリカン	ベリカン													32	1	13	14
	サギ		2														
	サンカノゴイ		3														
	ヨシゴイ	1	1		1												
	アオサギ	1	1	1	2									1	1		
	ダイサギ	1	3	2	2					1				2	2		2
ツル	ツル																
	クイナ		1														
	ヒクイナ		1														
カッコー	カッコー													1			
	ホトギス									1	2	1	2				
	カッコー									3	2	3	6				
チドリ	チドリ																
	シギ	1															
	チュウジシギ																
	タシギ		1	1													
	オグロシギ																
	オオソリハシシギ	1	1														
	ソリハシシギ	1															
タカ	タカ																
	ミサゴ													1	1		
	トビ													2	1		
	チュウヒ	1	1		3									3	1		
	ノスリ													1			
ブッポウソウ	ブッポウソウ																
スズメ	スズメ																
	モズ																
	モズ																
	ハシボソガラス		1	1	1					2	6						
	ハシブトガラス	2	2	1	1					4	4	5	7	5	5	6	10
	ヒバリ	2	2	3	3									1			
	ツバメ																
	ツバメ																
	ヒヨドリ																
	ヒヨドリ																
	ウグイス	3	6	2	5					1	3	1	2	2	1		
	ウグイス	2	3	2	2												
	センニュウ	6	16	2	9					18	15	13	11				
	オオソシギ		1	1						4	2	2	4				
	コシシギ	3	8	3	5					10	7	3	6				
	セッカ																
	ムクドリ																
	ムクドリ																
	ヒタキ																
	ツグミ		1	8	3												
	ジョウビタキ																
	ノビタキ	1												3	1	1	1
	スズメ																
	スズメ													3	5	1	1
	セキセイ																
	セキセイ																
	タビタビ													2	2	3	
	アトリ													4	3		23
	カワラヒワ																
	ベニマシコ																
	ホオジロ	3	7	2						1	2				3	4	4
	ホオジロ																
	カシラダカ																
	アオジ																
	オオジュリン																
	オオジュリン																
	カビチョウ																
	カビチョウ																
スズメ	スズメ																
(外来種)	(外来種)																

※調査範囲は距離1km×縦断50m(高さ50m)

(2) 希少種について

調査結果・鳥種のうち、環境省(2020 年)及び栃木県(2023 年)のレッドリストに記載された絶滅危惧種及び準絶滅危惧種等は次の通りであった〔計 8 種〕。

- ・環境省Ⅰb類・栃木県Ⅰ類：サンカノゴイ、オオセッカ
- ・環境省Ⅰb類・栃木県Ⅱ類：チュウヒ
- ・環境省Ⅱ類・栃木県Ⅰ類：コアジサシ
- ・環境省準・栃木県Ⅱ類：ヨシゴイ、ヒクイナ
- ・環境省準・栃木県準：ミサゴ
- ・栃木県準：コヨシキリ

※なお、4 月と 11 月に記録されたシマアジは、レッドリストに記載されていないが、環境省の 24 年度ガンカモ類生息調査実施要領で、「個体数そのものが少ない希少種」とされ、報告を求められている（全都道府県対象）。

(3) 各月のポイント

○4 月：サギ類が、サンカノゴイ・ヨシゴイの希少 2 種を含め、4 種記録された。また移動途中と思われるカモ類が、シマアジを含め 4 種記録され、ほかにヒクイナやオオセッカが記録されている。サンカノゴイ、ヨシゴイを含め、これらヨシ原に生息する希少種 6 種は、オオヨシキリ・コヨシキリとともに、当地で繁殖している可能性が高く、確認されたことは大いに意義がある。さらにチュウヒが確認されているが、大部分が冬鳥である本種の、この時期の記録は注目すべきであろう。

○6 月：繁殖期盛期にあたり、ヨシ原の優占種オオヨシキリとコヨシキリが多数記録された。コヨシキリは当地で繁殖期に普通に観察されるが、栃木県内ではおそらく渡良瀬遊水地が唯一の繁殖地であろう。またカッコウ科 2 種も記録されたが、本来森林に生息するホトトギスが、託卵相手のウグイスとともに当地で観察されたのは興味深い。希少種コアジサシと、4 月に続いてオオセッカが記録されたのも意義がある。

○11 月：4 月と並んで種数が多く、特にカモ類は種数・個体数ともに際立っている。またカンムリカイツブリやカワウも多く、これらはカモ類のミコアイサとともに魚食性であり、調査地はこれらの餌源となる小型の魚類の豊富さを想起させる。レッドリスト記載種のミサゴとチュウヒも複数羽観察されたことも重要である。なお、ミサゴは大型の魚類を捕食する猛禽である。

○1 月：都合により調査時間が短くなり、記録種数も少なかったが、11 月に続きカモ類が多数カウントされたことが目立った。特にオカヨシガモとコガモが際立っているが、調査地の環境がこの 2 種に合っているのだろうか。今冬は、各地でスズメ目の冬鳥や漂鳥がきわめて少ないと報告されている。ホオジロ科 4 種は、調査地で一応記録されたが、やはり個体数が少ない。同科で冬期のヨシ原優占種と思われるオオジュリン等については、次年度以降の推移を注目する必要があるだろう。

2024年度どろんこ庭づくり活動報告 渡良瀬遊水地を守る利根川流域住民協議会

1.活動目的

では、掘削当初にできた水辺が10余年の時を経て、遷移により様子が大きく変わってしまった。水辺は狭まりヤナギが成長した。植生はヤナギ林化し種多様性は減少傾向である。種多様性を維持するため、ヤナギの刈り払いに加えて、土壌を攪乱して遷移をリセットしようと試みた。

2.活動場所:

3.活動内容および結果

①2024.3.24(日)9:30～12:00

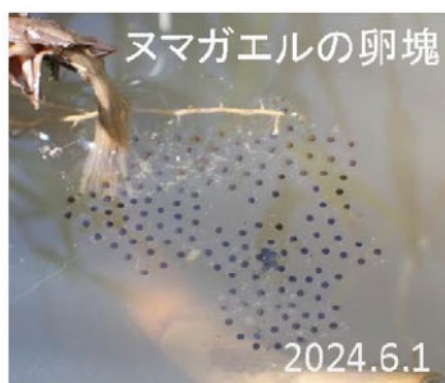
では2023.7.8からヤナギの刈り払いを実施し、その効果を確認してきた。刈り払いした場所の地上部は2024.3.2のヨシ焼きで大部分が燃えて無くなったが、ヤナギの切株と地中にヨシの根茎が残っている。土壌攪乱に切株と根茎は妨げとなる。土壌の攪乱はトラクターで耕起するのだが、同時に切株の掘り起こしと根茎の切断ができるか、試してみた。大きい切株は無理だったが、ある程度小さい株は掘り起こすことができた。掘り起こした切株は、根についている土を乾燥させて落とすよう天地返しにした。根茎は切断できたので、トラクターで耕起した場所は、土壌攪乱状態になった。その後、掘り起こした窪地に水が溜まり、その周囲には緑が芽生えた。



②2024.5.11(土)13:00～15:30

攪乱後、主にスゲ類が生える環境が出現した。トラクターで掘り起こせなかったヤナギの切株については、当面新芽を除いて光合成を抑制させ、株を弱らせることにした。

6月初旬、窪地の水たまりにはヌマガエル卵塊がいくつも浮いていた。6月中旬にはジョウロウスゲ、エゾミソハギなど希少植物が見受けられた。スゲ類はタマガヤツリ、マツバイ、テンツキの仲間などがあり、サデクサやアキノウナギツカミが蕾をつけ、シロネにはオオルリハムシがついていた。



③2024.6.23(日)9:30～12:00

ヤナギの新芽除去と刈り払いを予定していたが、荒天のため中止した。

④2024.8.4(日)9:00～11:30

を拡大するため、手刈り・刈り払い機で刈り払いをした。とちぎ市民活動推進センターからの呼びかけにより高校生ボランティアの多数の参加をいただいた。猛暑で休憩を取りながらの活動にはなったが、エリアを拡大することができた。窪地の水たまりにはゲンゴロウ類やエビの仲間が泳ぎ、空中ではチョウトンボとアジアイトトンボが飛んでいた。エゾミソハギに加えてヌマトラノオも花を咲かせていた。



⑤2024.9.21(土)13:30～16:00

でヨシ・ヤナギの刈り払いを実施するため、では動植物の観察のみ実施した。カヤツリグサ科の仲間が多く確認され、攪乱依存種のカンエンガヤツリをはじめ、ヌマガヤツリ、マツカサススキ、マツバイ、サンカクイなどが生えていた。ワタラセツリフネソウ、エゾミソハギ、クサネム、サデクサ、アキノウナギツカミ、ヤナギタデ、チョウジタデなども確認した。ワタラセツブゲンゴロウ、コシマゲンゴロウなどのゲンゴロウ類やガムシ類、アメンボなどが水たまりに生息していた。



⑥2024.10.27(日)9:30～12:00

刈り払いは[REDACTED]で実施し、動植物の観察をした。アキノウナギツカミの群落が出現していた。昨年にはこの光景は見られなかった。水たまりには、ゲンゴロウの仲間、ガムシ類、ミズカマキリを確認した。セイタカアワダチソウは道沿いには多いが、攪乱エリアには見受けられない。



⑦2024.12.8(日)9:30～12:00

刈り払いが終わった場所では草刈りを、刈り払いが終わっていない場所ではヤナギの刈り払いを実施した。兼ねてから懸案のヤナギの切株は、コウノトリ・トキ定着推進協議会のご厚意により重機で除去できることになり、重機で除去するヤナギ株に目印を付けた。



⑧2025.2.24(月)9:30～12:00

刈り払ったヤナギの枝をヨシ焼きで燃やすため、枯れヨシと束にして火道をつくる予定。

⑨2025.3.16(日)9:30～12:00

ヤナギの刈り払いを実施予定。重機導入を控えて、刈り払いエリアの拡大を図る。

4.まとめ

想定していた耕起を全ては実施できなかったが、土壌攪乱によって種多様性が高まることが確認できた。攪乱依存種のカンエンガヤツリや絶滅危惧種のジョウロウスゲが出現し、アキノウナギツカミの群落も出現した。窪地の水たまりには水生昆虫やカエルの卵塊も確認された。ヤナギを除くだけでも種多様性の維持には効果があるが、土壌攪乱を実施すれば、より一層の効果を望むことができる。攪乱方法については、攪乱の頻度や深さなど、具体的に検討する事項が複数存在する。今後検討のためには十分な面積を確保し、区画ごとに方法を変え比較することが必要となる。異なる攪乱方法によって多様な環境をつくることができれば、確実に種多様性の維持につなげることができる。

3. 渡良瀬遊水地野鳥観察会の活動報告

2024年 渡良瀬遊水地野鳥観察会			1月20日	2月17日	3月16日	4月20日	5月18日	9月21日	10月19日
観察記録									
目	科	種名							
カモ目	カモ科	ハシビロガモ		○					○
		オカヨシガモ			○多				
		ヨシガモ							
		ヒドリガモ		○	○				○
		カルガモ		○	○	○	○	○	○
		マガモ		○	○多				
		オナガガモ							○
		コガモ		○	○	○			○
		ホシハジロ			○				
		キンクロハジロ			○				
		スズガモ							
		ホオジロガモ							
		ミコアイサ		○					
		カワアイサ		○					
キジ目	キジ科	キジ			○	○		○	
カッコウ目	カッコウ科	カッコウ					○		
ハト目	ハト科	キジバト		○	○	○	○	○	○
ツル目	クイナ科	オオバン		○					○
カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ		○		○		○	○
		カンムリカイツブリ		○	○				○
		ミミカイツブリ						○	
		ハジロカイツブリ						○2	
チドリ目	チドリ科	タゲリ		○	○100+				
		タシギ				○			
	カモメ科	ユリカモメ						○	
		セグロカモメ		○		○			
コウノトリ目	コウノトリ科	コウノトリ	○10	○	○3	○		○	○
カツオドリ目	ウ科	カワウ		○	○	○		○	○
ペリカン目	サギ科	アオサギ		○	○	○		○	
		ダイサギ		○		○		○	○
		コサギ		○		○		○	
		ミサゴ		○					○
タカ目	タカ科	ハイタカ		○	○				
		チュウヒ	○18(東16, 西2)		○				
		ハイロチュウヒ	○3(♂2, ♀1)						
		トビ		○	○	○	○	○	○
		ノスリ	○2		○				
ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ							
キツツキ目	キツツキ科	コゲラ		○		○		○	
ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	○1		○				
スズメ目	モズ科	モズ		○			○	○	○
		カケス							
		オナガ			○			○	
		ミヤマガラス			○				
		ハシボソガラス		○	○	○	○	○	○
		ハシブトガラス		○	○	○		○	○
	シジュウカラ科	シジュウカラ		○	○	○		○	
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ			○	○	○		○
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ		○	○			○	○
	ツバメ科	ツバメ				○	○	○	
	ウグイス科	ウグイス			○	○	○	○	
	エナガ科	エナガ		○		○			
	ムシクイ科	ムジセッカ		○					
	ヨシキリ科	オオヨシキリ				○	○		
		コヨシキリ					○		
	センニュウ科	オオセッカ					○32(東20, 西12)		
	セッカ科	セッカ					○		
	メジロ科	メジロ				○			
	ムクドリ科	ムクドリ		○	○	○			
		コムクドリ				○			
	ツグミ科	シロハラ		○					
		アカハラ							
		ツグミ		○		○			
	ヒタキ科	ジョウビタキ		○	○				
	スズメ科	スズメ		○		○		○	
	セキレイ科	ハクセキレイ							○
		タヒバリ							
	アトリ科	アトリ							
		シメ		○		○			
		ベニマシコ		○					
		カワラヒワ				○	○		○
	ホオジロ科	ホオジロ		○	○	○	○		○
		アオジ		○		○			
		オオジュリン				○			
観察種数			5種	38種	30種	33種	15種	23種	22種
参考種	ガビチョウ					○		○	

2024年 渡良瀬遊水地野鳥観察会			10月24日	11月16日	12月21日
観察記録					
目	科	種名			
カモ目	カモ科	ハシビロガモ	○4		
		オカヨシガモ	○4		
		ヨシガモ	○4	○	
		ヒドリガモ	○13	○	○
		カルガモ		○	○
		マガモ	○2	○	○
		オナガガモ	○3	○	○
		コガモ	○5	○	○
		ホシハジロ		○	○
		キンクロハジロ		○	○
		スズガモ			○
		ホオジロガモ			○
		ミコアイサ			○
		カワアイサ			○
キジ目	キジ科	キジ		○	
カウコウ目	カウコウ科	カウコウ			
ハト目	ハト科	キジハト		○	
ツル目	クイナ科	オオバン	○87	○	○
カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	○	○	○
		カンムリカイツブリ	○	○	○
		ミミカイツブリ			
		ハジロカイツブリ		○	○
チドリ目	チドリ科	タゲリ	○7		
		シギ科			
	カモメ科	ユリカモメ		○	○
		セグロカモメ		○	
コウノトリ目	コウノトリ科	コウノトリ			
カウオドリ目	ウ科	カワウ		○	○
ペリカン目	サギ科	アオサギ		○	○
		ダイサギ		○	○
		コサギ			○
		ミサゴ		○	
タカ目	タカ科	ハイタカ		○	
		チュウヒ		○	○
		ハイロチュウヒ	○	○	
		トビ	○	○	○
		ノスリ			
ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ		○	○
キツツキ目	キツツキ科	コゲラ		○	○
ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ			
スズメ目	モズ科	モズ		○	○
	カラス科	カケス		○	
		オナガ			
		ミヤマガラス			
		ハシボソガラス		○	○
		ハシブトガラス		○	○
	シジュウカラ科	シジュウカラ		○	○
	ヒノドリ科	ヒノドリ			
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ		○	○
	ツバメ科	ツバメ			
	ウグイス科	ウグイス		○	
	エナガ科	エナガ		○	○
	ムシクイ科	ムシクイ			
	ヨシキリ科	オオヨシキリ			
		コヨシキリ			
	センニュウ科	オオセッカ			
	セッカ科	セッカ			
	メジロ科	メジロ		○	○
	ムクドリ科	ムクドリ			○
		コムクドリ			
	ツグミ科	シロハラ		○	○
		アカハラ			○
		ツグミ		○	○
	ヒタキ科	ジョウビタキ		○	○
	スズメ科	スズメ		○	○
	セキレイ科	ハクセキレイ		○	○
		タヒナリ		○	
	アトリ科	アトリ			○
		シメ		○	○
		ベニマシコ		○	○
		カワラヒフ		○	
	ホオジロ科	ホオジロ		○	○
		アオジ			○
		オオジュリン			
観察種数			13種	45種	43種
参考種		ガビチョウ		○	